

# 命をみつめて、自分の生き方を

—ヒロシマ・沖縄—

大 松 恭 宏

## 1 本実践への思い

本校の総合的な学習「人間領域」のねらいは、「人と人とのかかわりを通して、自分自身を見つめ、人間としてともにによりよく生きていこうとする子どもを育てる。」である。このねらいを達成するために、高学年では「命」という大きなテーマをあげて取り組むこととした。人類史上初めて原爆投下を受けた「ヒロシマ」、そして、悲惨な戦場となった「沖縄」。このできごとを、広島に住む子どもたちはどう受け止めるであろうか。「命」から目をそむけないで、「命」を真正面から見すえる子どもたちの姿を期待している。それが、自分自身の生き方に目を向け、人として自分はどう生きるかを模索していく姿につながるものとする。直接体験の場として、5年生では「平和記念資料館見学」と「語り部の方の話」、6年生では「糸数の壕見学」と「ひめゆり平和祈念資料館見学」を設定した。

活動の中で感じた子どもたちの素直な思いを、ただ単に一人一人の思いに終わらせるのではなく、互いの思いをからませることにより、深めたり広げたりしてふくらませていきたいと考えている。そうすることで、子どもたち一人一人が真剣に受け止めた「命」に対する思いを、自分自身のこととして、日々の生活に結びつけて考えてくれるものと期待している。また、関心の大きな子どもには、「自分タイム」を活用することで、継続した取り組みができるようにしていきたい。今回の活動が子どもたちにとって、学習の時間に終わることなく、これから生きていく上での大きなしっかりとした土台になってくれればと願っている。

## 2 実践の概要

### (1) ヒロシマ（5年生）

#### ① 自分の調べた「ヒロシマ」

図書室の本、借りてきた図書館の本、インターネット、家の人や知人の話などを手がかりに、自分の関心にそって「ヒロシマ」を調べ、ヒロシマノートにまとめていく。原爆の威力や悲惨さ、当時の生活の様子だけでなく、調べて気づいていく自分自身の思いも書き記せるようなノートの構成にした。

#### ② 平和記念資料館見学、語り部の方の話

学年PTC活動とし、保護者といっしょに学習を進めた。資料館の見学では、心をとらえられた場所にじっとたたずんでいたりと、語り部の方の話に聞き入り、何かをずっと考えていたりという姿が見られた。親と子で同じ物を見て、同じ話を聞いたことは、その日の家庭での話題として提供することができた。見て、聞いて、話し合っ、感じたことはヒロシマノートに書き表されていく。語り部の方への礼状の中には、子どもたちの感じた「ヒロシマ」への思いが表されている。資料館から出てきた子どもの表情が印象的で、忘れられない。

#### ③ 「ヒロシマ」で感じた自分の思い

「今まで気持ちが悪いと逃げていたが、初めて見ることができた。」「お母さんと戦争について話し合い、平和が一番だと感じた。」「語り部の方の話が耳から離れない。どんなに恐ろしく、怖かったらと思うと悲しくてしかたない。」というような思いがたくさん出された。互いの思いを言い合う中で、一番みんなの心を引きとめたのが「ヒロシマにつ

いてはもう知っていると思っていたけど、知っているつもりだった。ということに気づいた。」という発言であった。

## (2) 沖縄（6年生）

### ① 自分の調べた「沖縄」

「ヒロシマ」の時と同じく、自分で沖縄の戦争について調べる時間を設定した。あいにく子どもの期待に応えられるような資料があまり見当たらず、苦労の跡が見られた。しかし、調べていくにつれ、どんどん問いが生まれ「時間が足りない」という、うれしい悲鳴を聞くことができた。「ヒロシマ」と比べて調べ学習を進める子どもも多く、沖縄ノートには自然に感想が書き記されていった。

### ② 平和祈念資料館、糸数の壕へ

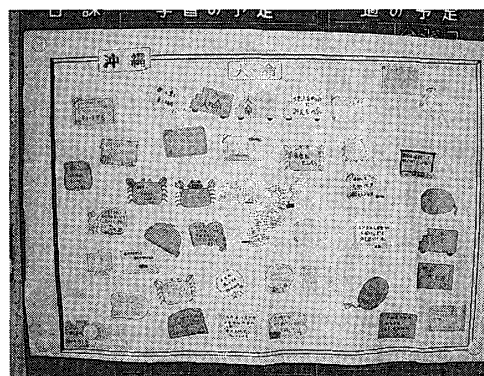
ひめゆり部隊の方の話に熱心に耳を傾ける子、証言の記をまばたきもせずにつめる子、当時の様子や遺品から目を離せなくなった子、自分の思いをうまく表現することはできない大きなテーマではあるが、平和祈念資料館の出口では、メッセージを書くために並んで待つ子どもたちも目にした。

台風の雨の中にもかかわらず、真っ暗な壕の中で静かに静かに何かを感じ取っていく子どもたち。見えないけれど、子どもたちの苦悩の表情が想像できる。

直接体験の場では、自分なりに何かを感じ、何かをしていかなければという、子どもたちの素直な思いが感じられた。

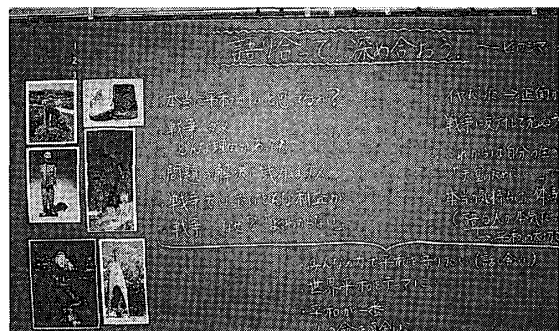
### ③ 「沖縄」で感じた自分の思い

あえて文章で書くことをさけ、短い言葉で表現する方法を選んだ。しかも、沖縄の「文化」「自然・海」「人・命」という3つのテーマごとに分けて、1枚の模造紙に全員の思いを貼りつけていった。体で感じた沖縄独特の文化と、忘れられない見事にきれいな海と、戦争の生々しい爪跡とを比べることにより、戦争や平和への子どもたちの思いを浮きぼりにしたかったからである。



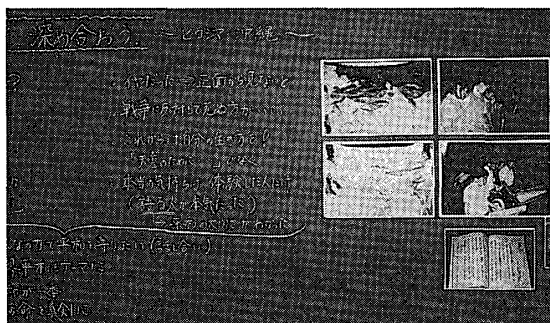
## (3) 「ヒロシマ・沖縄」をみつめて（6年生）

### ① 命をみつめて「ヒロシマ・沖縄」



論を出すのではなく、自分が感じて、考えることが、生きる上で大切なことであることに気づくことができるようにという願いで行った。頭で考えた言葉でなく、子どもの内面から湧き上がる心の言葉となるよう、素直に語り合える場、真剣に向かい合える場となるように、細心の注意をはらって雰囲気づくりに努めた。

友だちとの語り合いを通して、「命」を見つめる自分の姿勢を深めることができる。ことをねらいに、設定した時間である。ヒロシマノート、沖縄ノート、写真、模造紙、自分の感想を材料に、「ヒロシマ・沖縄」の学習を通して感じたこと、思ったことを自分の言葉で語り合う。そうすることで、自分の思いをさらに深め合う。結



### 3 子どものノートから

活動の最後に書いた、子どもたちの「今、何を感じ、何を思う？」を整理して、今回の学習をふりかえってみたい。

#### 【戦争への怒り】

「戦争とは絶対にあってはいけないもの。存在してはいけないもの。」「人の命を傷つけるだけで何の得にもならない。」「戦争をして何の得？何がいい？」「武力がどうしてなくならないのか。」「戦争は悲しくて怖くて恐ろしいもの、それがわかっているなぜするのか。」「どんな理由があっても、どんなことがあっても絶対、絶対してはいけない。」「戦争をしようということは心が死んでいることだ。」「爆弾を落として命中？何が成功？同じ人間を殺して得がある？命がけで戦って死んで、どういう気持ち？」「武器や核兵器を使って、人を殺して何のためになるのか。」「だれなんだ。こんな、くだらない殺し合い・戦争を考えて始めたのは、何を考えているんだ。」「戦争をしている国に、ふざけるな！と言ってやりたい。』

#### 【平和な世界にするために】

「自分が平和のために何かをしなくてはいけない。心の中で思っているだけではだめだ、意味がない。」「戦争という言葉がなくして、平和という言葉が大きく広がっていきたい。平和のことだけを考えて、人のことを思って生活していきたい。」「戦争ではなく、平和というテーマが世界の人々の心の中にあって欲しい。」「やっぱり戦争はいけない。と言ったあとの行動が、戦争か平和かを決めると思う。」「平和にしよう。という思いをみんなが真剣にもって、世界平和の実現に向けて努力する。一人一人が、生きていく一つのテーマとして取り組んでいくことが必要だ。」「戦争を始めようとしたら、一生懸命反対したい。そんな気持ちをみんなが持てるように努力したい。」「世界が一つになって、人々の心が通じ合い、世界中が笑顔いっぱいであふれる国であって欲しい。』

#### 【自分への気づき、疑問】

「なんとなく僕はきれいごとを言っていたのかもしれない。」「僕は戦争とどのようにぶつかればいいのかわからなくなった。戦争体験のない僕が、戦争はいけないとわかっているでも簡単に言ってもいいものなのか？」「みんな、私より真剣にいろいろなことを感じていた。私は、正面から自分を見つめていたのか？」「〇〇さんの、あの言葉が心に焼きついている。□□さんの大切な言葉、本当にそうだと心から思う。△△君の強い感情が込められた言葉、心からうなずいてしまう。」「友だちの思い聞いて、心から戦争について真剣に考えようという心が生まれてきた。本当の気持ちをより強く感じられる自分になりたい。」「体や心がしめつけられるような思いがした。怖いとか悲しいとか、そんな思いとはちょっと違う。」「〇〇さんの意見を聞いて、自分はもうどうなるかと思った。心の底から思っているのだろうか。もっと、戦争・平和ということを理解していききたい。」「戦争を体験した人たちに、私たちの考えはどう映るのだろうか？まだまだ、真剣さが足りないのだろうか？言葉だけなのだろうか？」

### 4 今後へ

これで終わりにしたくない。子どもたちのこの真剣さを、素直に受け止める心を止めないように。学び続けて、考え続けて、一人一人が自分の生き方をこれからも探し続ける人であって欲しい。

☆ 今、何を感じ、何を思う？ ☆

戦争にあつた人たちの話を聞いている時、話してくれている人たちの表情が私達とちがうなと思った。話してくれた人は話していくうちにどんどん思いがこみあげてきて泣いていた。もう一度戦争の事を思い出すのは、どなたにやらいだろう。つらくても戦争の事を人々に伝えて平和にしていきたいんだと思う。戦争に実際、私はあつていないけれど、ちがう見方で分りたいと思う。いや分らないといけないと思う。同じ人間なんだから...。世の中に戦争という言葉が消える時、世界は平和になったといえる。平和という言葉がどういった意味がはっきりと分らないけれど。